

【長野市への政策提言】

スポーツ×教養でつくる「帰りたいまち、ずっといたいまちNAGANO」
(概要版)



2025/12/13

公益社団法人長野青年会議所, 2025

〈目次〉

ご挨拶.....	3
はじめに.....	4
市民意識調査アンケート.....	5
政策提言 1. My winter sport — ウィンタースポーツを身近に —.....	16
政策提言 2. Morning sport — 朝に強い都市NAGANOを創る —.....	21
政策提言 3. Multi-sport — マルチスポーツで多くの機会創出 —.....	26
政策提言 4. Reboot the Kominkan — 寺子屋が長野の学びを変える —.....	32
政策提言 5. Rebranding the Library — 図書館を再構築する —.....	35
政策提言 6. Reframe the MLA — 博物館、図書館、美術館をつなぐ —.....	38
スポーツ×教養その先の未来へ.....	41

ご挨拶

長野青年会議所は1953年の創始以来、72年に亘り「明るい豊かな社会の実現」に向けて、この長野市をより良くしようと活動し地域社会に貢献してまいりました。

昨今の厳しい経済情勢や人口減少による超高齢社会、生産年齢人口やまちの賑わいの減少など、この長野市には多くの課題が山積しており、我々はこれらの地域課題を解決に導く活動によって持続可能な社会を目指し挑戦を続けております。

本年、我々が住もう長野市をより明るい豊かなまちとするため、長野市の課題を調査研究し力強く青年会議所運動を推進する中で、我々青年だからこそできる自由な発想と壮大な夢を描くことが、このまちに住み暮らす市民や地域社会への貢献になると確信し、「スポーツ×教養」をテーマに政策提言を行うに至りました。

この政策提言が誰にとっても住み暮らしやすい、魅力あるまちの発展に貢献・寄与できることを心から願って、ここに政策提言を提出します。

令和7年12月
公益社団法人長野青年会議所
2025年度 理事長 村田 雄介

はじめに

本年度、我々長野青年会議所は、長野市が持続可能な地域であり続けるために、今後我々が挑戦すべき社会開発運動の方針を議論し、このまちの強みに着目し更なる「ありたい姿」を描いた本書を呈します。

では、長野市の強みとはいかなるものでしょうか。我々は以下のように考えました。

1975年にスポーツ都市宣言、1998年開催の長野五輪、2028年開催予定の信州やまなみ国スポに代表されるように、長野は冬季スポーツ夏季スポーツに限らず、登山やクライミングなど自然環境を生かしたものなど、年間を通して様々な運動をすることができる稀有なまちです。そんなスポーツとの距離の近さが長寿のまちとして実を結んでいるのではないかでしょうか。長野市だからできることがスポーツにはあります。

長野県は教育県である、この言葉は誰もが一度は耳にしたことがあるのではないかでしょうか。1800年代、海洋資源や産業もなく、都会へのアクセスも悪い。そんなまちの未来を憂いた先達が時代に取り残されないためにとった起死回生の一手が教育への投資です。教育環境を整えることで長野県民自身が産業を創り、文化を生み、まちづくりをしていく、その思いは「探究県」長野として現在の長野県教育の目指す姿になり、全国屈指の文化施設保有件数を誇るなど形として実を結んでいるのではないかでしょうか。県都たる長野市だからこそできることが教育にはあります。

長野市政に目を向けると、現在計画中である令和9年度から開始される次期長野市総合計画において、第五次計画の課題として「計画全体の市民から見た分かりにくさの解消」や「幅広い分野・立場の市民が参画できる手法の検討」が記載され、基本視点には①多様な市民の意見を反映した計画づくり、②市民に分かりやすい計画づくり、③実効性の高い計画づくりの各記載がなされていることからも分かるように、「市民に寄り添い、市民意識に訴え、強みを活かした実現可能なまちづくり」が求められています。

この2つの大きな強みから、我々だからこそその自由な発想で強みをさらに昇華させ、10年後20年後の将来を見据えた長野市の「ありたい姿」として提案をします。スポーツを文化、教育と融合させ、生き方の創造を探求することができる唯一無二の地方都市として、官民一体となったこれからの中の明るい豊かな社会に向けた方針となるべきと考えます。

市民意識調査アンケート

長野青年会議所では過去の社会開発運動等の調査研究を行った結果、長野市の強みとして、「スポーツ」と「教育・教養」があるのではないかと考えました。長野市民の意識調査を行うことで、我々と市民が同じ想いを抱いているのか、運動の方向性は間違っていないかの確認として市民意識調査アンケートを実施いたしました。多くの市民の協力を頂戴し、911件の回答が得られました。

市民意識調査アンケート <https://docs.google.com/forms/d/1u2JioYC58xuGY6HetzZ6nMi8eLR5fVvQlmtiapR4YM/viewanalytics>

長野市のスポーツ環境としての強み、特色

長野市は、豊かな自然環境と調和した暮らしの中で、スポーツや身体活動が日常的に根づいているまちです。全国では、週2回以上・1回30分以上の運動を1年以上継続する「運動習慣者」は概ね3割程度とされる一方、長野市では指標の定義は異なるものの、週1回以上スポーツを行う人が約6割と報告されています。このことから、長野市では市民の“からだを動かす文化”的厚みがうかがえます。こうした特性を生かし、健康増進や地域交流、観光・教育分野まで幅広い波及効果が期待できます。こうした高い運動参加率は、身近に山や川などの自然環境があり、四季を通じてウォーキングやスキー、登山など多様な活動を楽しめること、また健康寿命が全国トップクラスである地域文化の賜物といえます。

市民にとってスポーツは特別な行事ではなく、暮らしの延長にある「からだを動かす文化」として根づいており、これこそが長野市の最大の強みです。

この特性を生かすことで、競技スポーツだけでなく、健康増進、地域交流、観光振興、教育など、さまざまな分野での相乗効果を生み出すことが期待されます。

長野市におけるスポーツの課題

長野市は1998年に冬季オリンピックを開催し、ウィンタースポーツの聖地として世界に名を知られる存在となりました。しかし、その輝かしい実績の一方で、現在はオリンピックレガシーの活用や維持管理に課題を抱えています。大会後に整備された大型施設の多くは、維持費の負担が大きく、市民利用率の低さが問題視されています。市民の間でウィンタースポーツが日常文化として根づいていないことも、レガシーの持続的活用を難しくしている要因の一つです。

さらに、市民全体の運動習慣の希薄化も顕著である。長野県は健康寿命の長さで全国上位に位置する一方、日常的な身体活動量には地域差が大きく、運動を習慣的に行う層とほとんど行わない層との「運動の二極化」が進んでいます。特に若年層や働き世代では、仕事や生活の忙しさからスポーツへの関心が低下し、結果として地域全体のスポーツ人口が伸び悩んでいます。

このように、長野市は「ウィンタースポーツのまち」というイメージと実態との間にギャップを抱えており、オリンピック遺産の再活用と市民のスポーツ参加の裾野拡大が急務となっています。

長野市の教養におけるの強み、特色

長野市は、教養において色濃い背景を持つまちです。「教育県長野」、この言葉は誰もが一度は耳にしたことがあるのではないでしょうか。1800年代、海洋資源や産業もなく、都会へのアクセスも悪い。そんなまちの未来を憂いた先達が時代に取り残されないためにとった起死回生の一手が教育への投資です。幕末期寺子屋数全国一位（図表1参照）やその建設費の7割近くを町民の寄付でまかなかった旧開智学校に代表されるように、教育環境を整えることで長野県民自身が産業を創り、文化を生み、まちづくりをしていく、その想いは「探究県」長野として現在の長野県教育の目指す姿になり、全国屈指の文化施設保有件数を誇るなど、形として実を結んでいます。

県都たる長野市はさらに学問の自由を尊重し、教養を身に付け、真理を求める土壌があるといえます。この古来からの特性を活かし、学習のみにとらわれず精神の表現を自由に行えるまちとして、情緒的健康、地域交流、観光振興など、様々な分野での相乗効果を生み出すことが期待できます。

長野市における教養の課題

長野市は県政150周年を迎える「教育県長野」の県都であり、その意識は現在に至るまで市民意識に根付いていります。しかし、先達たちが築いた輝かしい功績の一方で、教養を育む長野市が保有する文化施設に目を向けてみると、長野県内図書館数において長野市は第6位の4館、長野市が施設を有する公民館数においては、本館29館別館27館の56館であり公民館数全国1位の長野県内において多くの件数を保有しています。しかし、すべての公民館が一様ではありませんが利用者の構成比率において高齢者が多くを占め、地域の文化や教育を支えるといった本来の目的が果たせているとはいい難い状況となっています。

さらに、市民全体の学習習慣の希薄化も顕著である。長野市民を中心に我々が実施した市民意識調査アンケートにおいて、「図書館」、「その他文化施設（美術館、博物館等）」の利用頻度を設問に設けたところ、両設問共に「全く利用していない」、「年に数回」という回答が約8割を占めた。事実、毎週やほぼ毎日のように利用される市民がいる一方、やはり利用者ごとの格差が大きく、文化施設の多くは市民の大半がほぼ使用が無い状態であるといえます。誰もがSNSに触れ、AIの発達の著しい昨今も相まって特に若年層や働き世代では、仕事や生活の忙しさから文化・教養への関心が低下し、結果として地域全体の文化施設の利用が伸び悩んでいます。

このように、長野市は「教育のまち」というイメージと実態との間にギャップを抱えており、既存の施設の再活用と市民への教養に対する文化意識の醸成が急務となっています。

まずはレベル上げから。

今こそ地域を、長野を、育てる時



文化や慣習がその地域を育てます。

そして、そうして育まれた魅力ある地域だからこそ、人が訪れ、観光が生まれます。その観光によってもたらされた収益が、再び地域の文化を支え、さらに新しい魅力を育てていく——

一に文化、二に観光、三に収益。

この流れが逆転してはなりません。

「お金が欲しいから観光業を成り立たせよう」

こうした発想では、根の浅い事業しか生まれません。

残念ながら、いま多くの地域で、このサイクルの**逆流**が起きています。

文化が置き去りにされ、観光と収益だけが先行する

それでは一時の繁栄こそあれ、**持続**はしません。

大切なのは、「文化が観光を生み、観光が経済を育て、その経済が再び文化を支える」という本来の循環を取り戻すことです。

このように、**文化を起点とした健全な循環**を生み出し、地域の魅力を高めていくことこそが、

私たち長野青年会議所が掲げる「まちビジョン POWERFUL CITY NAGANO」——

すなわち、“時代を牽引する地方都市の確立”の実践に他なりません。

文化や慣習の再生は、単なる観光振興ではなく、

地域の教育・経済・環境のすべてを底上げする**未来への投資**です。

社会（人の育成）、経済（地域の力）、環境（持続可能性）——

この3つの要素を支える基盤として文化を位置づけることで、

長野市は「暮らしの豊かさ」と「地域の誇り」を両立できる都市へと進化していきます。

まちビジョン **POWERFUL CITY NAGANO**

～時代を牽引する地方都市の確立～

戦略1
《社会》

未来への架け橋

長野市の青少年育成と
地域活性化

戦略2
《経済》

未来への投資

長野市の魅力が生み出す
経済力

戦略3
《環境》

未来への基盤

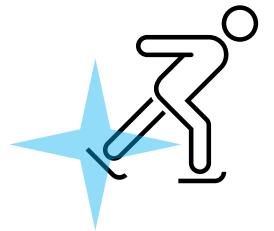
持続可能なまち長野

公益社団法人長野青年会議所が掲げる長期ビジョン

長野青年会議所が目指すスポーツビジョン

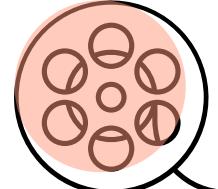
長野市の強みを活かし、
市民全員がスポーツ文化を育み
活力と活気が溢れる都市、NAGANO

そんな長野を 3 つの政策で実現します



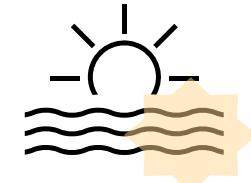
My Winter Sport

冬季スポーツを もっと身边に



Multi Sport

マルチスポーツで 多くの機会創出



Morning Sport

朝に強い都市 Naganoを創る



M1

My Winter Sport

ウィンタースポーツを身近に

M1

My Winter Sport

雪板文化推進による“日常型”雪遊び環境の整備

M1-1

M1

My Winter Sport

通年営業の中型アイスリンクの建設・民間連携運営

M1-2

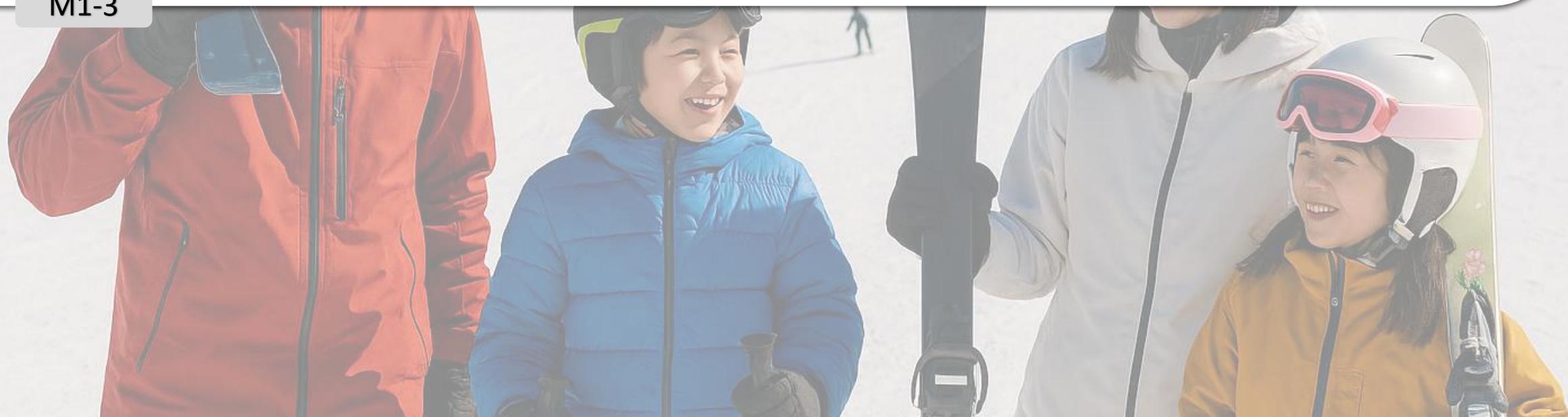
M1

My Winter Sport



市民向けスキー場アクセス及び利用支援

M1-3



M1

My Winter Sport

既存オリンピック施設の再編活用（多目的利用・維持コスト削減策）

M1-4





Morning Sport

朝に強い都市 NAGANO を創る

A blurred background image of a person wearing a blue hoodie jogging on a path at sunset, with trees and a warm sky in the background.

M2

Morning Sport

「早起きスポーツ」専用ポータルサイトの立ち上げ

M2-1

M2

Morning Sport

クラブチームや企業への朝練奨励（助成・表彰制度）

M2-2

M2

Morning Sport

市立施設の早朝利用優遇（早割・専用枠設定）

M2-3

M2

Morning Sport

湯

インフラ支援：早朝バス・銭湯／シャワー施設の協力体制整備

M2-4



Multi-sport

マルチスポーツで多くの機会創出

M3

Multi-sport

小中学校へのマルチスポーツ教育導入（季節ごとの種目ローテーション）

M3-1



M3

Multi-sport

未経験歓迎「スポーツ体験月間」の定期開催（年2回以上）

M3-2

M3

Multi-sport

「マルチスポーツ・パスポート制度」（複数競技体験・割引制度）

M3-3

長野青年会議所が目指す教養ビジョン

古来から根付く市民意識を活かし、

市民全員が教養文化を育み

心の豊かさが溢れる都市、NAGANO

そんな長野を 3 つの政策で実現します





Reboot the Kominkan

寺子屋が長野の学びを変える

R1

Reboot the Kominkan

公民館を拠点とした寺子屋活動を実施する

R1-1

寺子

公民館を拠点とした寺子屋活動を実施する

R1-1

R1

Reboot the Kominkan

公民館ならではの各世代への講座、体験型展示等の拡充

R1-2

公民館ならではの各世代への講座、体験型展示等の拡充

R1-2





R2 Rebranding the library

図書館を再構築する

R2

Rebranding the library

教養

長野市立図書館を文化・教養の発信拠点として再構築する

R2-1

長野市立図書館を文化・教養の発信拠点として再構築する

R2-1



R2

Rebranding the library

子供にも学力に直接関係しない知識や体験を提供する

R2-2

子供にも学力に直接関係しない知識や体験を提供する

R2-1



 **R3 Reframe the MLA**

博物館、図書館、美術館をつなぐ

R3

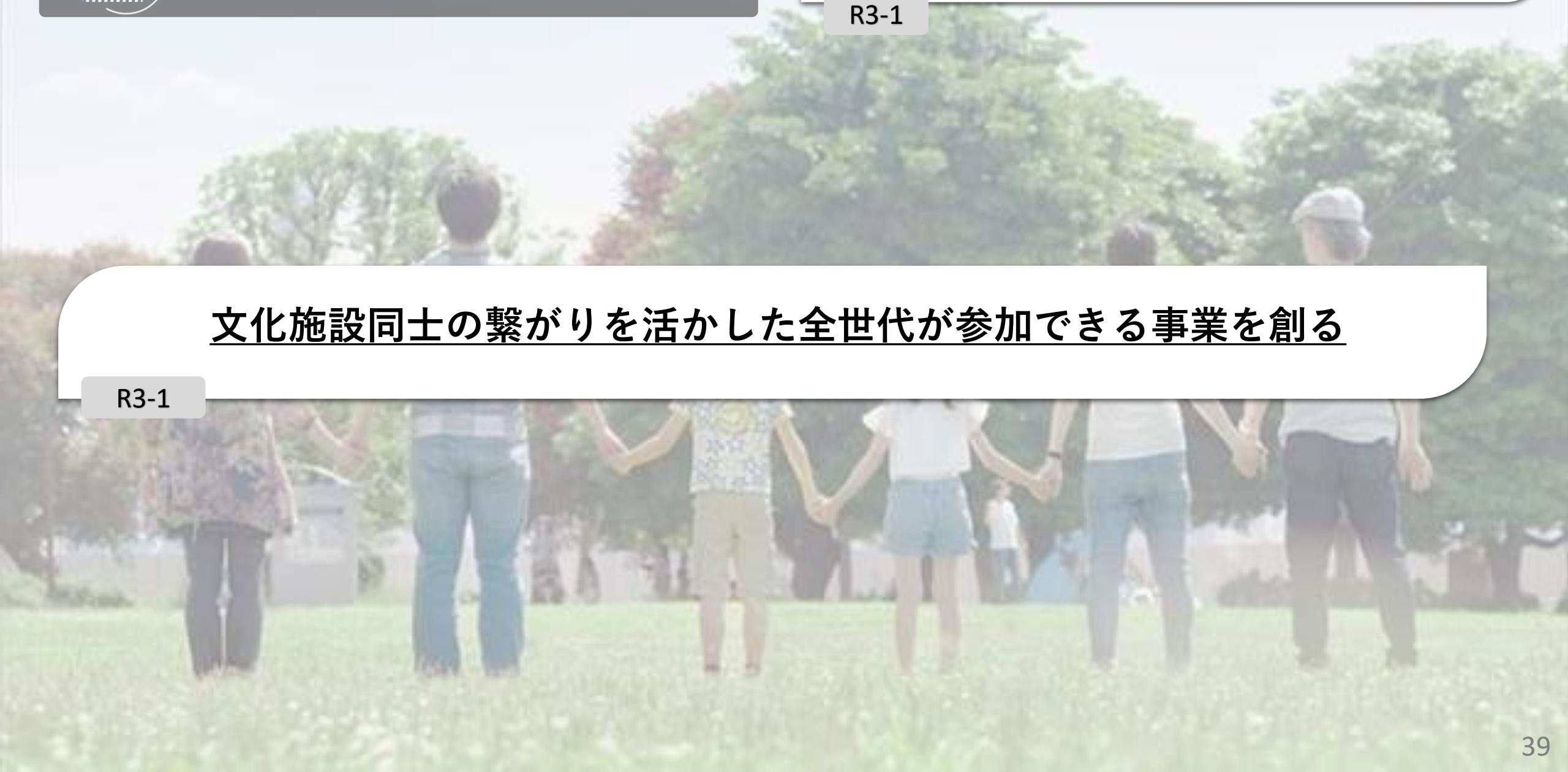
Reframe the MLA

文化施設同士の繋がりを活かした全世代が参加できる事業を創る

R3-1

文化施設同士の繋がりを活かした全世代が参加できる事業を創る

R3-1



 R3

Reframe the MLA

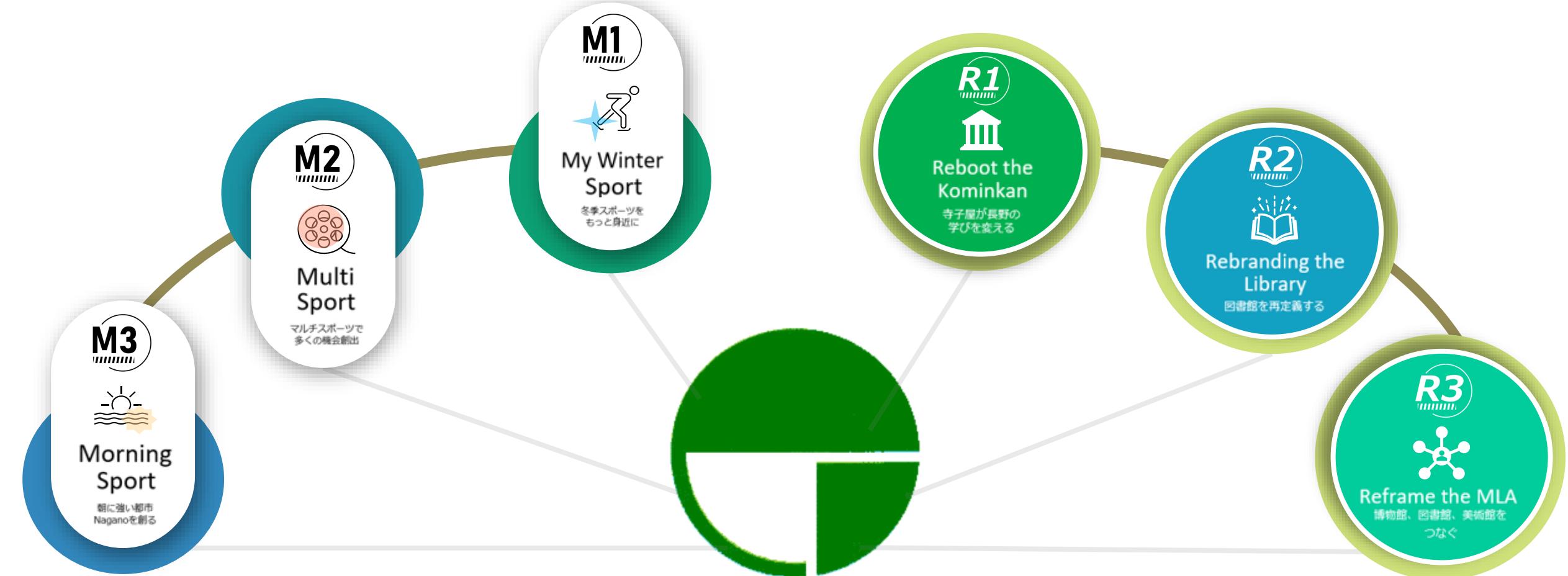
多種多様なイベントと組み合わせた発表の場を創出する

R3-2

多種多様なイベントと組み合わせた発表の場を創出する

R3-2

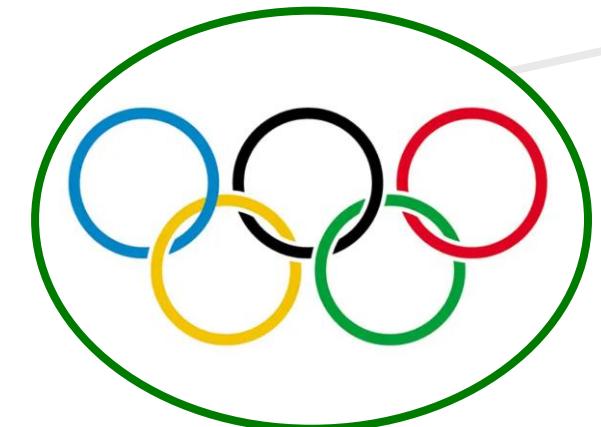
スポーツ×教養その先の未来へ



帰りたいまち、ずっといたいまち
NAGANO



帰りたいまち、ずっといたいまち NAGANO



スポーツ国際大会



観光振興



スポーツ×教養施設



文化国際大会



スポーツ×教養都市宣言

おわりに

本年度、長野青年会議所は10年後・20年後の将来を見据え、魅力ある持続可能なまちを目指し、社会開発運動の方向性を議論しながら、NAGANOの「ありたい姿」を描く事業を展開してきました。様々な調査研究、歴史や文化を体験する中で、このまちの可能性にたどり着くことができました。

「観光都市開発」いまや日本中でこの言葉を聞く日はありません。地域を盛り上げ、観光で収益を上げるために人を誘致し、SNS映えスポットの情報が溢れています。しかし、観光の根底にあるのは「文化」です。土地ならではの暮らしや人々の姿が文化を育み、住みたい街をつくり、人を呼ぶ。文化が地域を育て、観光が収益を生み、再び文化を支える——この健全な循環こそが、長野市が目指すべき姿です。

我々の想い描く「スポーツ×教養でつくる 帰りたいまち、ずっといたいまちNAGANO」の文化醸成が進めば、全国でも数例しかない「スポーツ×教養」の都市宣言や、このまちの強みをさらに伸ばす拠点として“スポーツ×教養の複合施設”的建設も考えられます。身体の表現であるスポーツ、精神の表現である教養、文化の具現化を行うこの施設は、新たなまちの強みであり、市民が眞のウェルビーイングを実感できる拠点となるでしょう。さらに、先達が築いたスポーツ都市・教育県としての強みを市民が再認識し、文化醸成に努めれば、憲章に「オリンピズムはスポーツを文化、教育と融合させ、生き方の創造を探求するものである」としている五輪の再招致やその他の世界的スポーツ・文化イベントの開催にもつながります。過去にNAGANOという文化を世界に発信した都市として、今一度まちの根源を見つめ直す時ではないでしょうか。

本提言が、健全なサイクルのまちづくりの一助となることを切に願います。

【作成・編集】

2025年度未来黎明委員会

担当室長 山崎 義明

委員長 西澤 準

副委員長 清水 亮

副委員長 干川 龍馬

副委員長 室賀 直

理事 塚田 翠

顧問 伊藤 拓宗

委員 金丸 望美

委員 櫻井 幸仁

委員 鶴見 真慧

委員 吉池 悠汰

準会員 酒井 理希

準会員 塚田壯太郎

準会員 宮下 晴幸

公益社団法人長野青年会議所

〒380-0904

長野市大字鶴賀七瀬中町276 長野商工会議所内3階

電話番号：026-228-3260

FAX番号：026-228-3278

メール：info@nagano-jc.or.jp